



堺化学工業株式会社

2019年3月期

決算説明会

2019年5月28日

目 次

- 1. 2019年3月期 決算概要**
- 2. 2020年3月期 通期予想**
- 3. 新中期経営計画について**



2019年3月期業績概要（対前期）

金額単位：百万円

摘 要	前期 (2018.3)		当期 (2019.3)		増 減	
		対売上高比率		対売上高比率		
売上高	87,223	100.0%	89,541	100.0%	2,317	2.7%
営業利益	4,690	5.4%	4,404	4.9%	▲ 285	▲ 6.1%
経常利益	4,279	4.9%	4,553	5.1%	273	6.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,329	2.7%	3,606	4.0%	1,391	54.8%

- ◆ 前半は国内景気の緩やかな回復基調により電子材料や酸化チタン、化粧品材料、触媒が堅調に推移したが、米中貿易摩擦の激化や年度後半の中国景気の減速の影響を受け、売上高は前連結会計年度比2.7%増にとどまった。
- ◆ 年度を通じた原燃料価格や物流コスト等の上昇が収益を押し下げるとともに、酸化チタンの生産トラブルによるコスト上昇（操業度低下、修繕費増）、電子材料の生産調整、樹脂添加剤の価格是正の遅れなどにより、営業利益は減少した。

事業内容と売上高構成

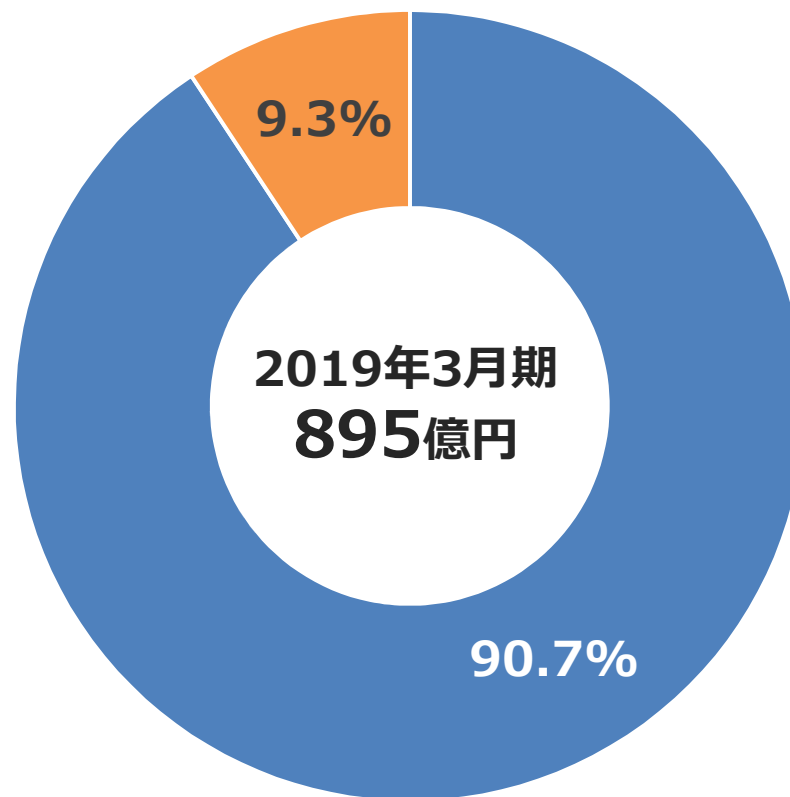
医療

バリウム製剤、アルギン酸ナトリウム製剤、医療機器、改源ブランドを柱として、医療用から一般向けまで幅広く医療と健康に貢献する製品・サービスを提供しています。



化学

亜鉛製品、バリウム製品、酸化チタンといった天然鉱石から加工する技術や粉体をコントロールする技術などにより、さまざまな分野に展開している主力事業です。

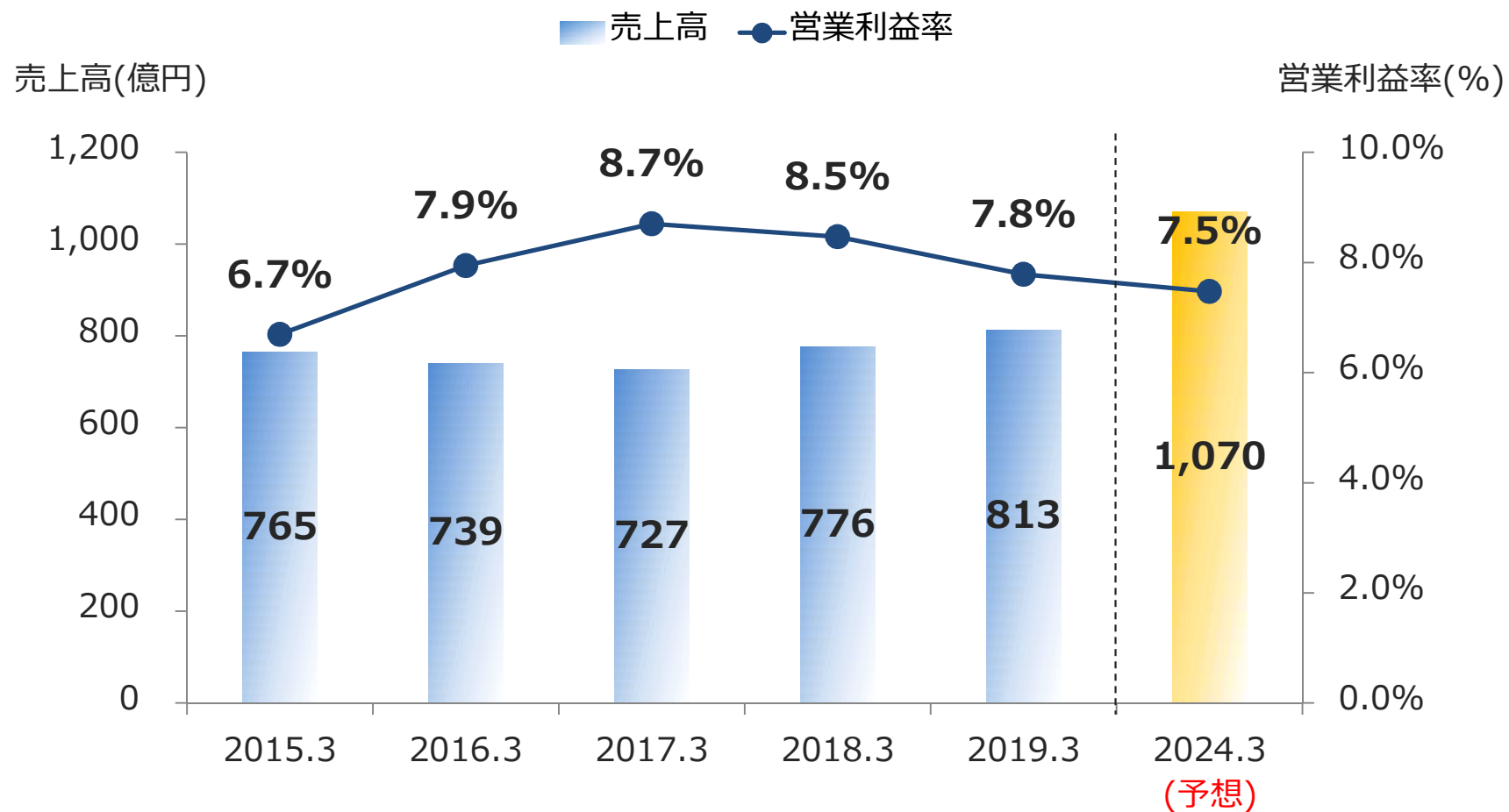


事業別売上高・営業利益

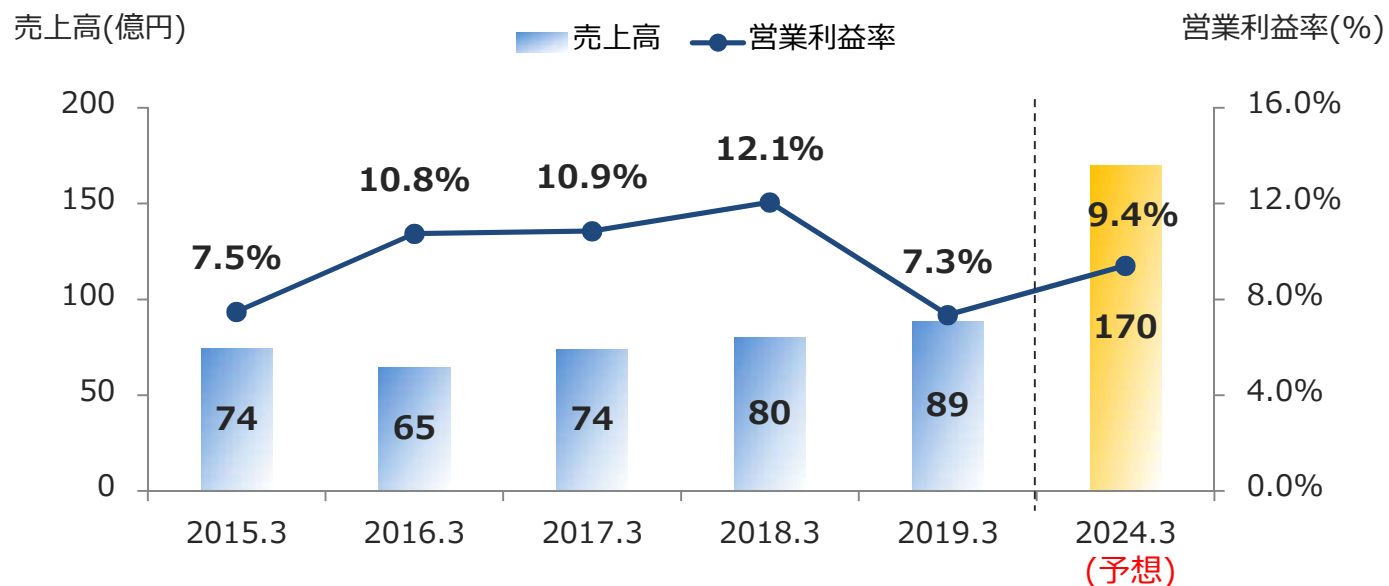
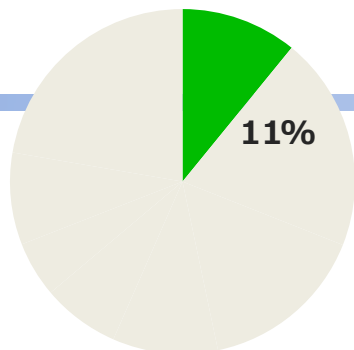
金額単位：百万円

概要		前期 (2018.3)	当期 (2019.3)	増減 (率)	
化学事業	売上高	77,628	81,256	3,627	4.7%
	営業利益	6,574	6,326	▲ 248	▲ 3.8%
医療事業	売上高	8,920	8,285	▲ 635	▲ 7.1%
	営業利益	132	376	244	184.6%
その他	売上高	674	—	▲ 674	—
	営業利益	16	—	▲ 16	—
全社費用	売上高	—	—	—	—
	営業利益	▲ 2,033	▲ 2,297	—	—
合計	売上高	87,223	89,541	2,317	2.7%
	営業利益	4,690	4,404	▲ 285	▲ 6.1%

化学事業の売上高・営業利益率



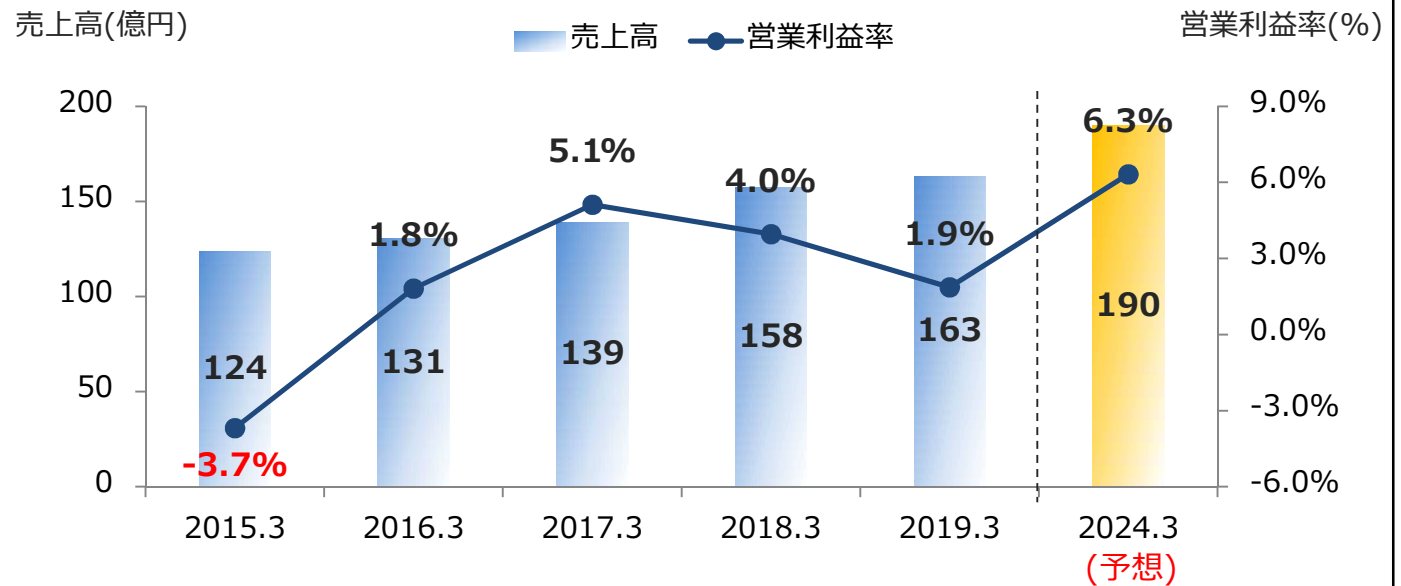
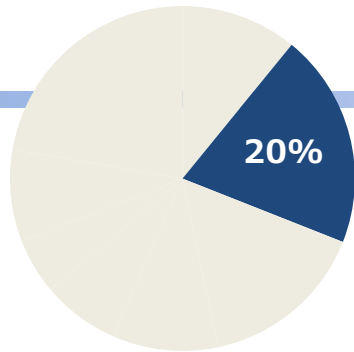
電子材料



2019年3月期のポイント

- 誘電体は、年度後半の中国景気の減速の影響を受けたほか、開発品の微細誘電体が本格採用に至らなかった。
- 誘電体材料は、顧客からのさらなる増産要請に基づく設備増強を進め、売上高は伸張したが、原燃料価格上昇分の価格転嫁が遅れ、利益は減少した。
- 前期比 売上高+825百万円(10.3%増), 営業利益▲318百万円(32.8%減)

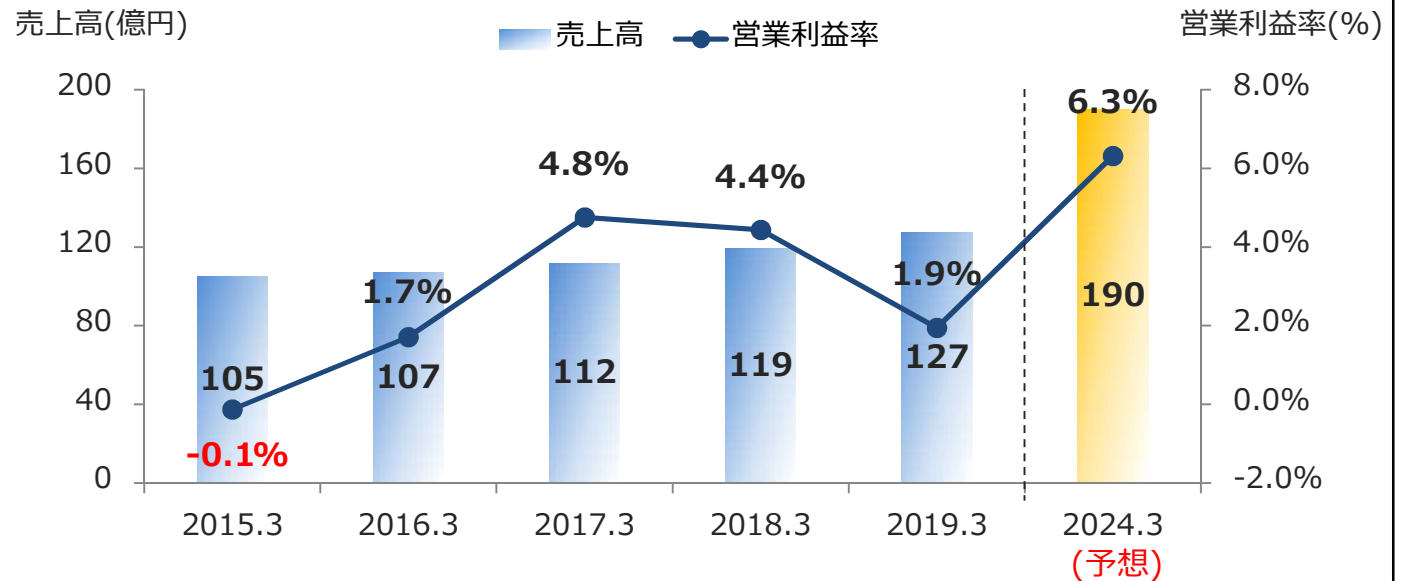
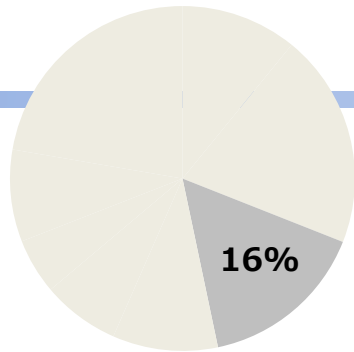
酸化チタン・亜鉛製品



2019年3月期のポイント

- 酸化チタンは、原料鉱石および燃料の価格高騰に対応するため価格転嫁を実施したが、設備トラブル等による製造原価の上昇が想定以上に大きく、採算が悪化した。
- 化粧品向け微粒子酸化チタンや微粒子酸化亜鉛は、世界的なスキンケア化粧品の需要増を背景に、売上、利益を大きく伸ばした。
- 前期比 売上高+583百万円(3.7%増), 営業利益▲320百万円(51.3%減)

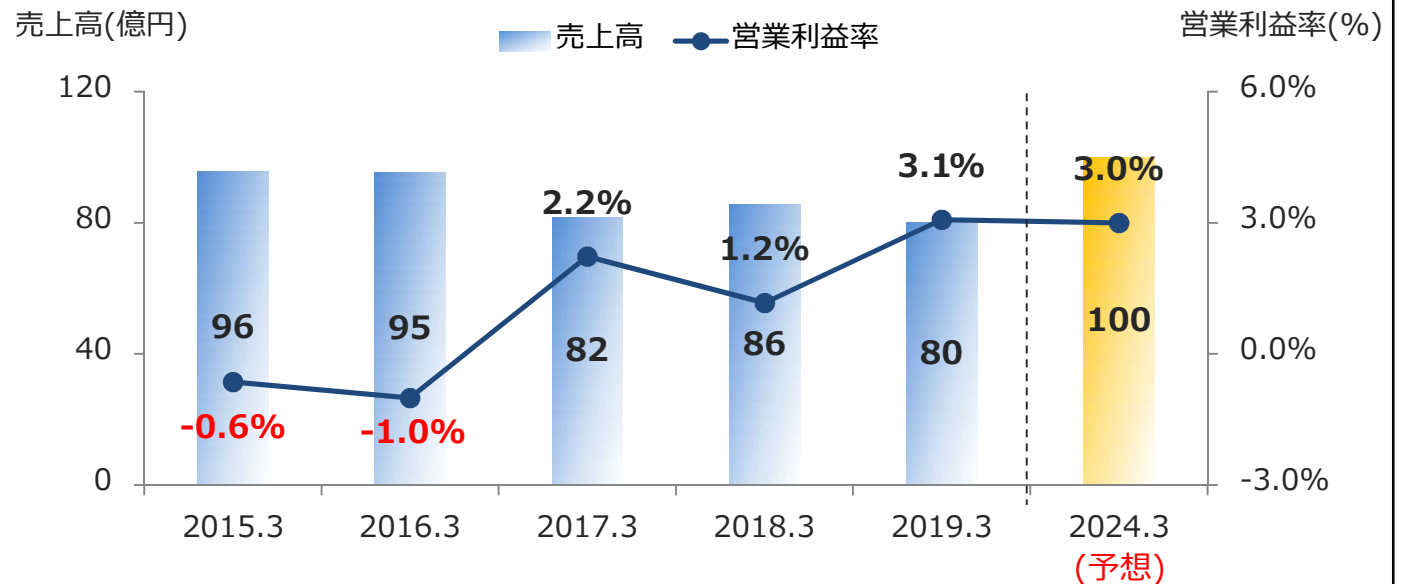
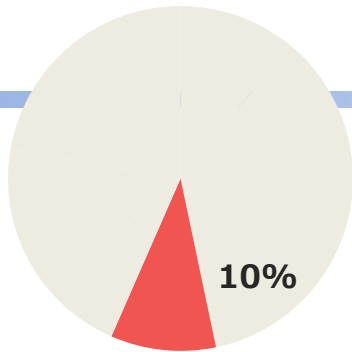
樹脂添加剤



2019年3月期のポイント

- 国内向けは、パイプおよびIT関連設備に使用するPVC工業板が低調であったことに加えて原料価格の上昇もあり、収益性が悪化した。
- 海外向けは、当連結会計年度中にSIAM STABILIZERS AND CHEMICALS CO., LTD.を傘下に収めて売上を伸ばしたものの、韓国および中国向けが景気減速の影響を受けて年度後半から低調に推移し、利益は減少した。
- 前期比 売上高+811百万円(6.8%増), 営業利益▲281百万円(53.1%減)

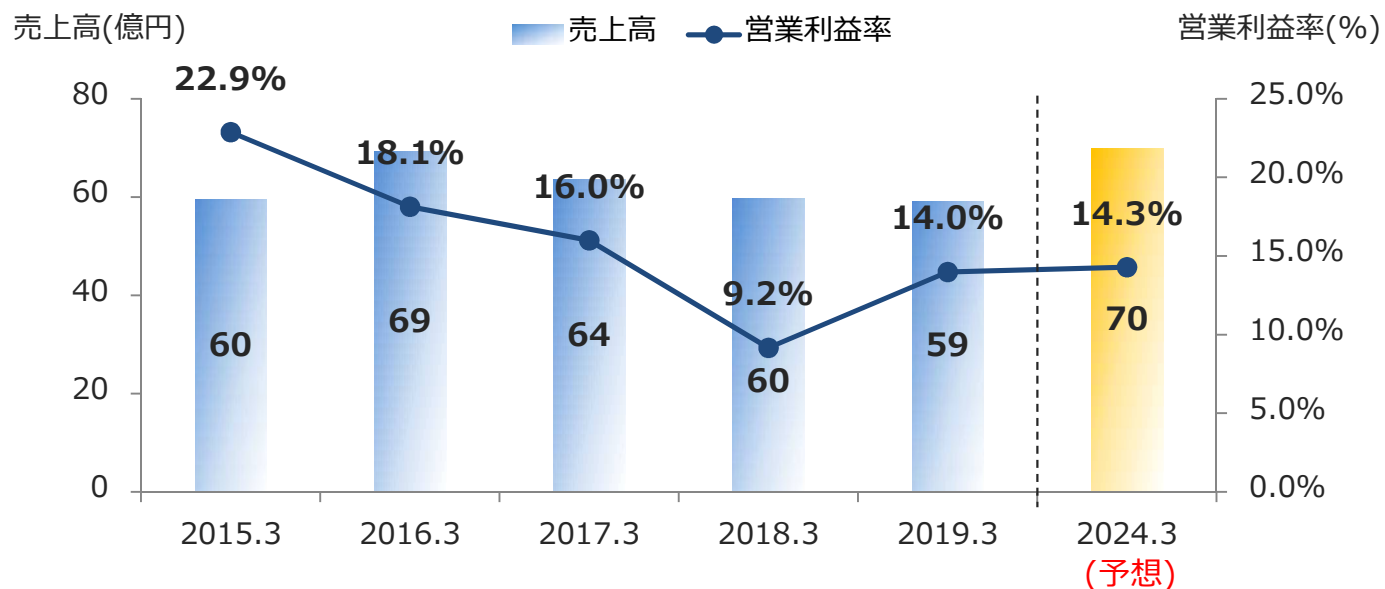
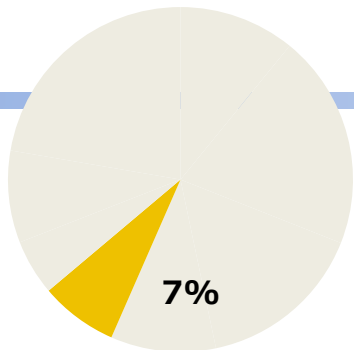
衛生材料



2019年3月期のポイント

- 紙おむつの市場が拡大基調であるなかで、フィルムやテープなどの衛生部材の販売が伸びた。また、生産拠点であるPT.S&S HYGIENE SOLUTIONにおいても、生産効率の改善に取り組んだ結果、工場の安定操業が実現し、収益性の向上に大きく貢献した。
- 前期比 売上高▲552百万円(6.5%減), 営業利益+146百万円(146.0%増)

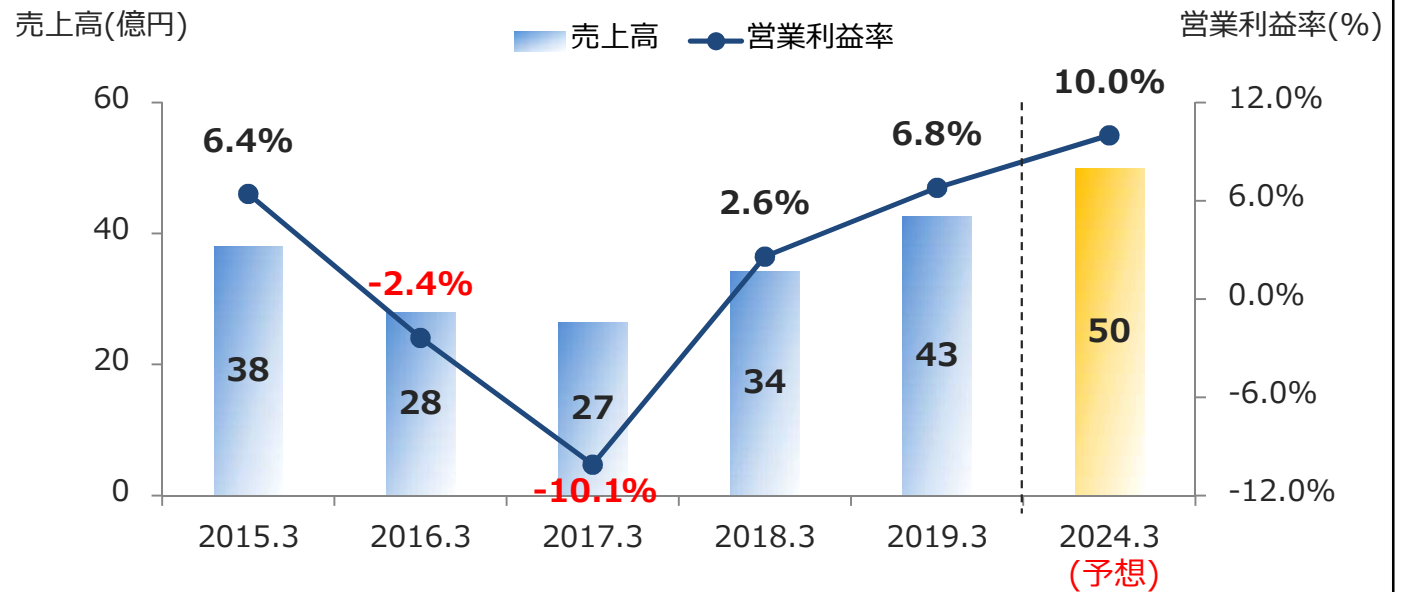
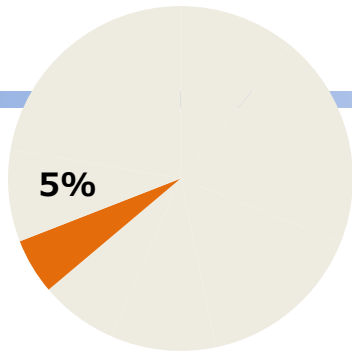
有機化学品



2019年3月期のポイント

- 片山製薬所の医薬品原薬・中間体は、中間体は大口顧客からの受託数量が減少したが、原薬が伸び、収益が回復した。
- SC有機化学のチオ製品は、プラスチックメガネレンズ向け販売比率を上げたため、売上、利益を伸ばした。現在さらなる生産効率改善に取り組んでいる。
- 前期比 売上高▲60百万円(1.0%減), 営業利益+280百万円(51.1%増)

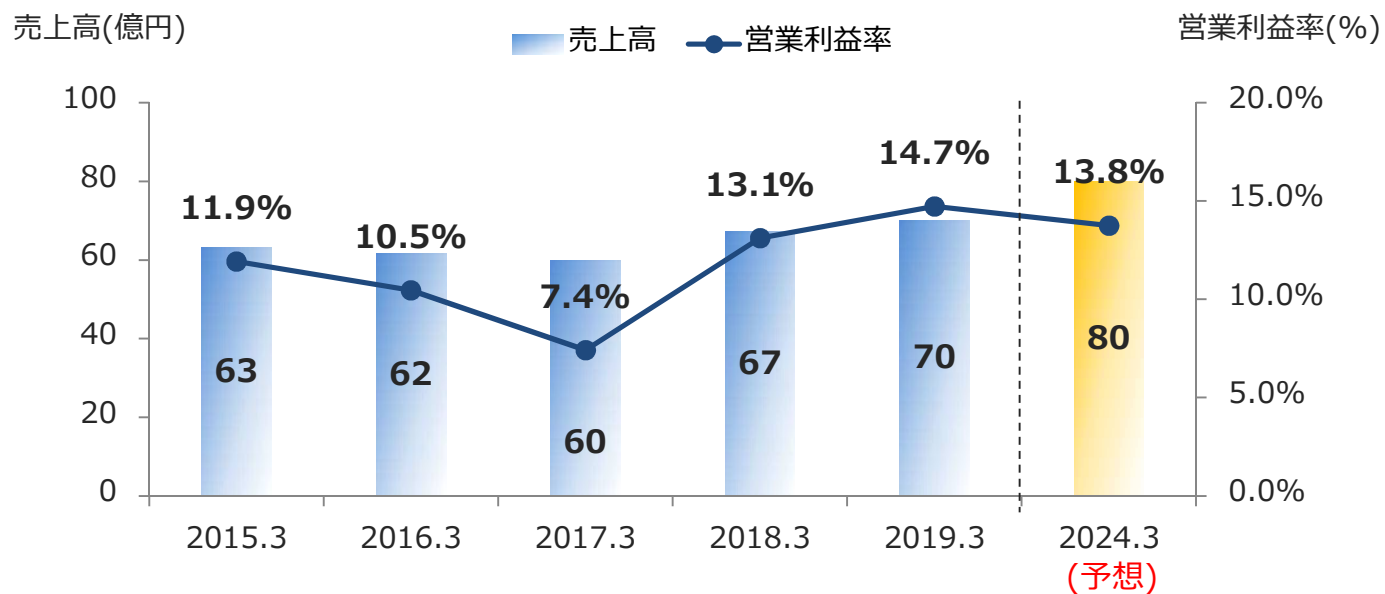
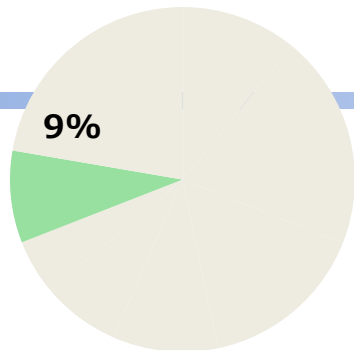
触 媒



2019年3月期のポイント

- 石油樹脂の水素添加などに使用するニッケル触媒は、最終用途の光学フィルムや紙おむつ向け接着剤原料の市場拡大に伴い、販売を大きく伸ばした。
- 脱硝触媒は、中国で環境規制が一段と強まるなか、現地の鉄鋼業向けなどの民間需要を取り込んだ。
- 前期比 売上高+830百万円(24.2%増), 営業利益+200百万円(224.7%増)

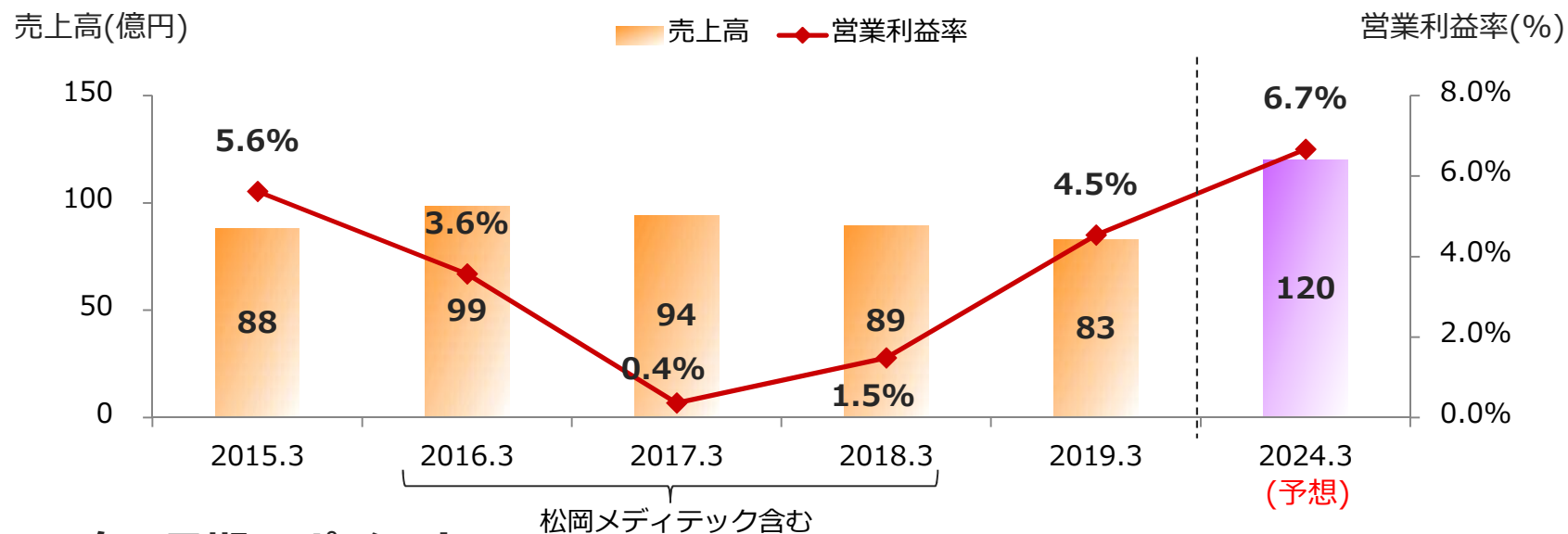
受託加工



2019年3月期のポイント

- レジノカラー工業は、電子材料や自動車向けなどの機能性インキが堅調に推移し、前年同期並みとなった。
- 日本カラー工業は、順調に受託を獲得し、売上、利益ともに好調に推移。
- 前期比 売上高+279百万円(4.2%増), 営業利益+149百万円(16.9%増)

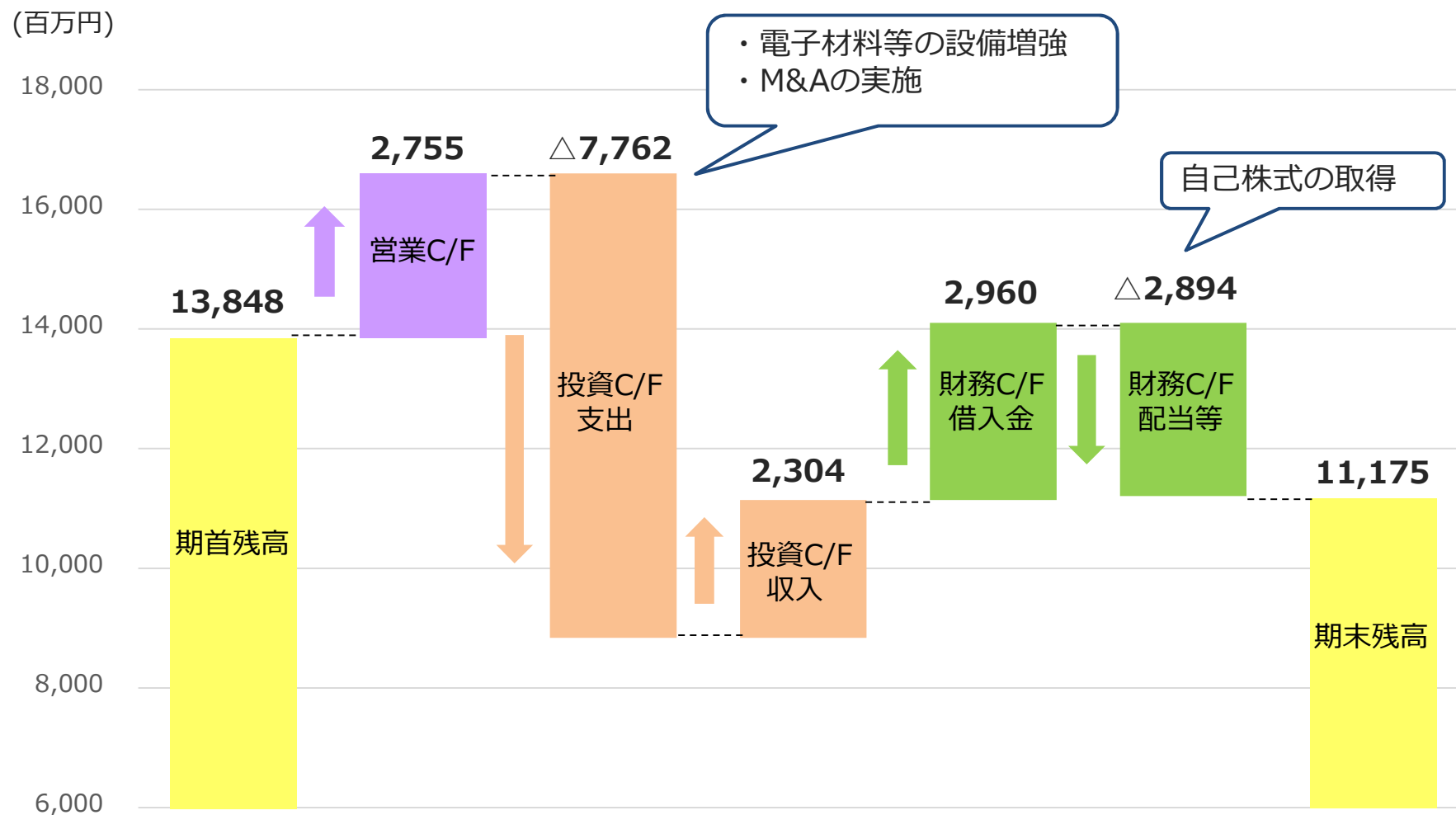
医療事業の売上高・営業利益



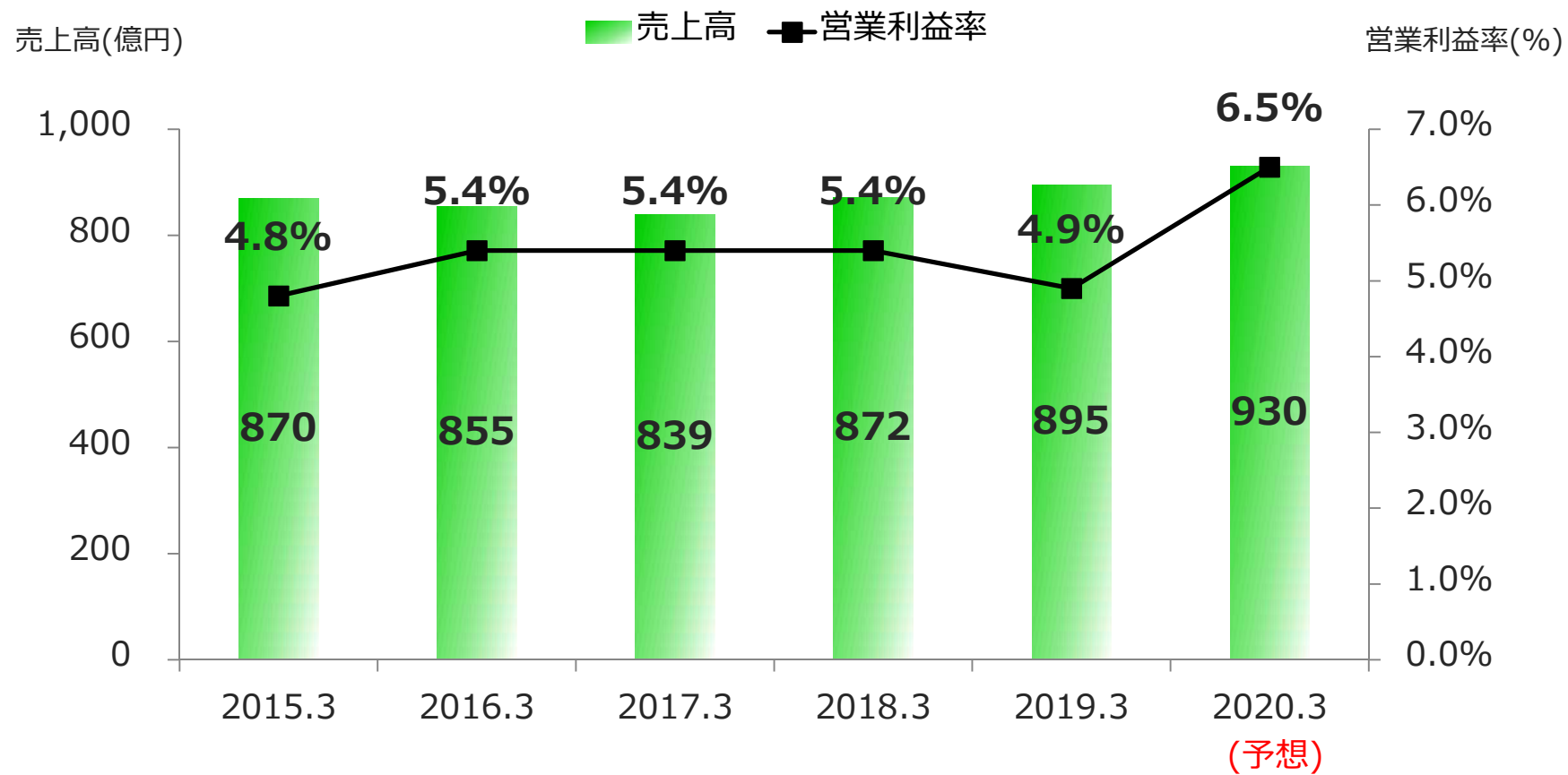
2019年3月期のポイント

- X線バリウム造影剤は、国内における大口需要先のさらなる開拓や韓国、台湾への輸出拡大に取り組んだ結果、国内市場の縮小を最小限にとどめた。
- 「アルロイドG」は、後発品メーカーの撤退により、売上が回復。
- 医療機器は、機器本体の販売台数は高水準を維持したことに加え、メンテナンス契約等の獲得により、堅調に推移。
- 一般用医薬品は低調に推移したが、美容医療機関向け商品の日焼け対策サプリア「ソルプロ」シリーズが好調に推移。
- 新製品の治験終了による委託外注費の減少などにより増益。

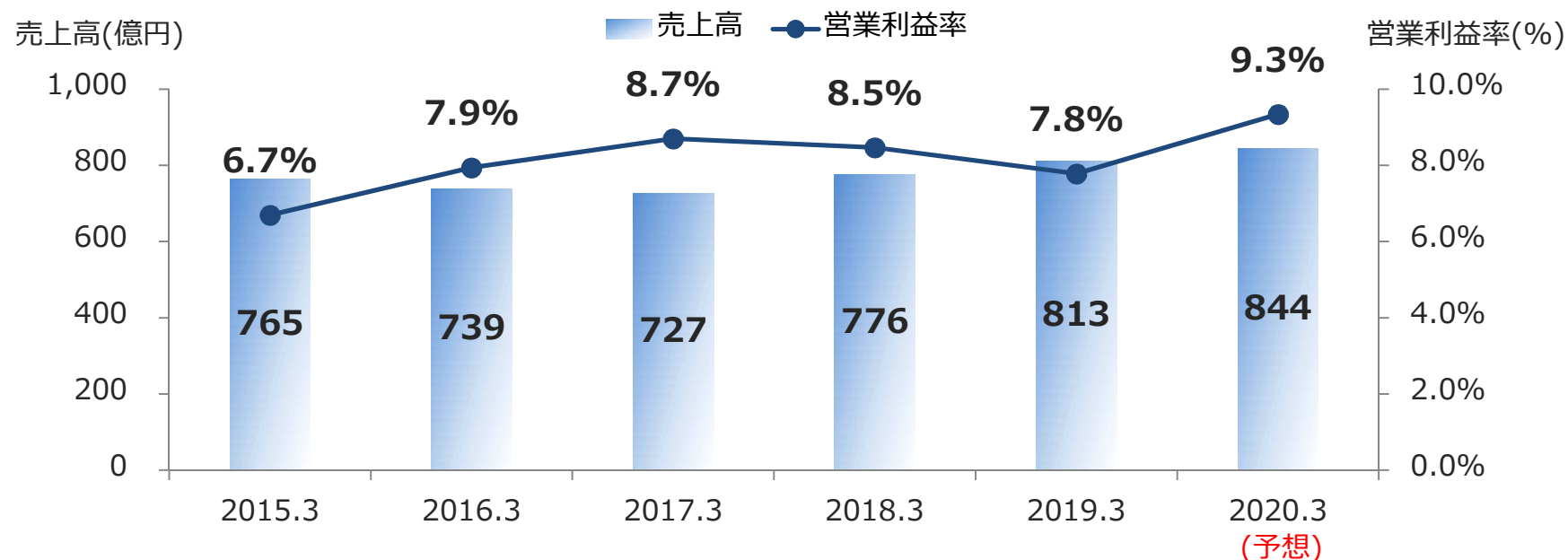
キャッシュ・フロー計算書



業績予想：全体

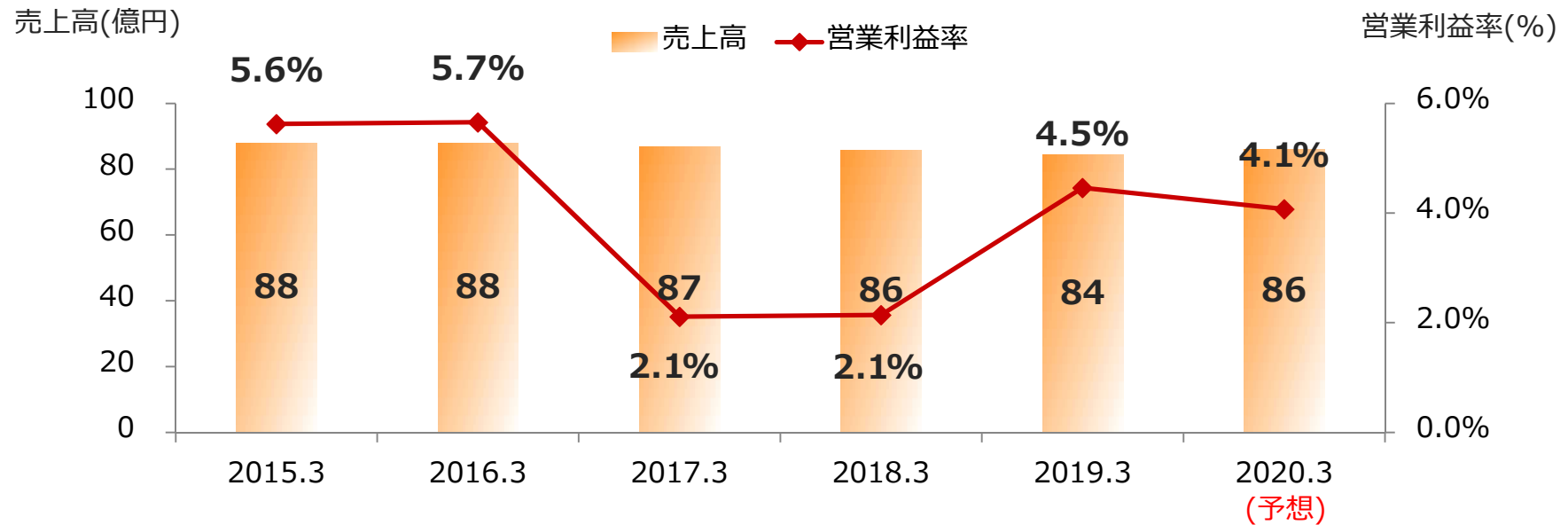


業績予想：化学



- ◆ 電子材料や樹脂添加剤など、原料コストが上昇した製品の価格是正により収益が改善。
- ◆ 誘電体材料や化粧品材料の設備増強により、下半期から販売が増加。
- ◆ 酸化チタンは老朽化設備の改修を進め、安定操業を行って収益が改善。

業績予想：医療（カイゲンファーマ）



- ◆ 10月の薬価引き下げの影響を受ける。
- ◆ 6月に発売する粘膜下注入材（リフタルK）と内視鏡用注射針（リフテインニードル）が寄与する見込み。

設備投資、減価償却、研究開発費等

金額単位：百万円

摘 要	2015.3	2016.3	2017.3	2018.3	2019.3	通期予想 2020.3
設備投資額	4,510	7,988	3,939	4,013	6,891	10,000
減価償却費	3,140	2,169	2,877	3,005	3,189	4,000
研究開発費	2,644	2,773	2,909	3,217	2,951	3,000
借入金	12,672	15,900	16,602	14,576	17,528	20,000
従業員数	1,705	1,796	1,870	1,875	1,964	1,980

SAKA*INNOVATION* 2023

(中期経営計画2019-2023年度)

前中計『共創2018』の振り返り



前中計の振り返り

■最終年度（2019.3）数値目標

	修正前	修正後
売上高	1,000億円	900億円
営業利益	60億円	54億円

■主な経営課題

- ① 本業の『稼ぐ力』の早期回復で確実な増益体質を構築
- ② 新製品の開発促進と業績への早期貢献
- ③ 堺化学グループ間の協業や社外との連携強化により事業の相乗効果を実現
- ④ 海外を含めた成長市場での事業展開を加速
- ⑤ 攻めのガバナンスを採り入れグループ経営の充実を促進
- ⑥ 価値観や目指す方向性の共有化で社員の一体感を醸成する風土改革の実行

前中計の振り返り

■ 3年間の業績推移

単位：百万円

	■ 1年目 (2017.3)	■ 2年目 (2018.3)	■ 3年目 (2019.3)
売上高	83,938	87,223	89,541
営業利益	4,551	4,690	4,404
経常利益	4,290	4,279	4,553
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,037	2,329	3,606

<目標数値未達の主な要因>

売上高	子会社2社（ラインファルト工業、松岡メディテック）の売却
営業利益	<ul style="list-style-type: none">酸化チタンの設備トラブルによる修繕費増と低操業による原価アップ原燃料、物流コスト上昇分など価格転嫁の遅れ中国景気減速による、台湾、中国市場向け電子材料製品の生産調整の影響燃料電池市場の低迷や電子材料向け開発品の上市遅れ

前中計の振り返り

■ 主な経営課題に対する取組み

① 本業の『稼ぐ力』の早期回復で確実な増益体質を構築

⇒ 電子材料や触媒、化粧品材料を中心に積極的な設備投資

MLCC関連	21億円
ニッケル触媒	17億円
化粧品材料	5億円

② 新製品の開発促進と業績への早期貢献

⇒ MLCC向け高付加価値グレードは本格採用が遅れる

高屈折材料は昨年から急速に立ち上がり寄与、新工場を計画

③ 堺化学グループ間の協業や社外との連携強化により事業の相乗効果を実現

⇒ レジノカラー工業と化粧品材料、SC有機化学と高耐熱性樹脂

④ 海外を含めた成長市場での事業展開を加速

⇒ 樹脂添加剤事業でタイ国の企業を傘下に収め、東南アジア地域の拡販体制を整備

新中計 『SAKAI*INNOVATION* 2023』 の概要



新中計の目標数値と課題

『SAKAI INNOVATION 2023』では、6つの事業領域を中心に収益向上を図り、そのための戦略投資として190億円を計画し、数値目標として掲げた営業利益80億円以上、営業利益率7%以上、ROE6%以上を達成し、新たな堺化学グループ像の創造に挑戦します。

	2019年3月期 実績	2024年3月期 目標
営業利益	44億円	80億円以上
営業利益率	4.9%	7%以上
ROE	4.6%	6%以上

<対処すべき課題>

- ① 稼ぐ力へ再挑戦し確実な増益体質を実現
- ② 再構築投資による環境と人にやさしい工場・オフィスの実現
- ③ 10年先の社会を見据えた新事業へ取り組む
- ④ 総還元性向30%以上を目標とした安定的・継続的な配当を実施

人と環境にやさしい製品づくり

	環境（E）	社会（S）	ガバナンス（G）
経営 基盤 強化	省資源、省エネルギー 産業廃棄物削減 化学物質の適正管理	製品の安全、品質管理 働き方改革への取り組み オープンイノベーション 地域社会とのかかわり	取締役会の多様性確保 コンプライアンス・リスク 管理の推進 ステークホルダーとの対話
注力 事業	<p>【環境にやさしい製品】</p> <p>電子材料事業 ◆燃料電池用材料</p> <p>樹脂添加剤事業 ◆非鉛系塩ビ安定剤</p> <p>触媒事業 (環境配慮型触媒) ◆銅触媒 ◆PET重合触媒 ◆脱硝触媒、ダイオキシン 分解触媒</p>	<p>【人にやさしい製品】</p> <p>酸化チタン・亜鉛製品 ◆UVカット化粧品材料</p> <p>医療事業 ◆医薬品、医療機器 ◆がんスクリーニング 検査 ◆美容医療領域</p> <p>化学その他事業 ◆医薬品原薬・中間体 ◆紙おむつ材料 ◆視覚障がい者誘導用 標示点字シート</p>	

設備投資計画

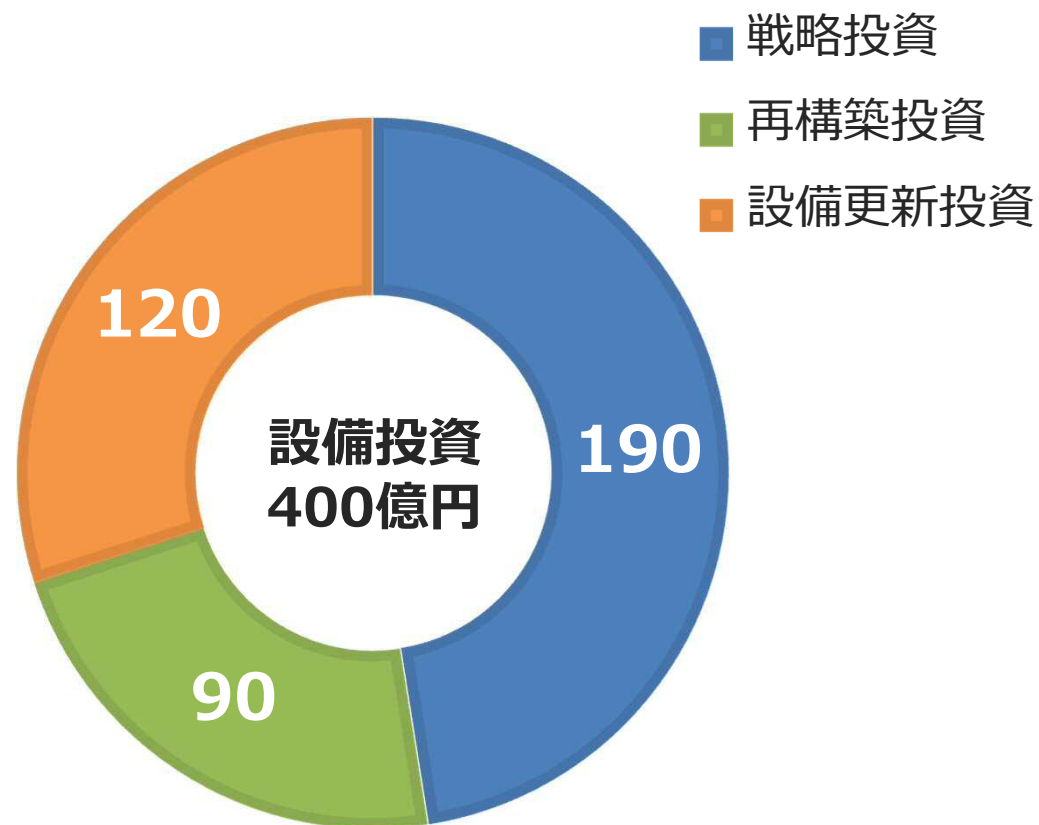
『SAKAI INNOVATION 2023』では設備投資総額400億円、
そのうち収益向上に向けた戦略投資として190億円、
将来を見据えた再構築投資として90億円を計画

戦略投資

電子材料（MLCC用関連）、
化粧品材料など既存事業を中心
に、主に5年先の数値目標達成
のための投資

再構築投資

人にやさしく災害に強い工場・
オフィスの構築のための投資、
将来の新規事業、製品を見据え
た基盤整備のための投資



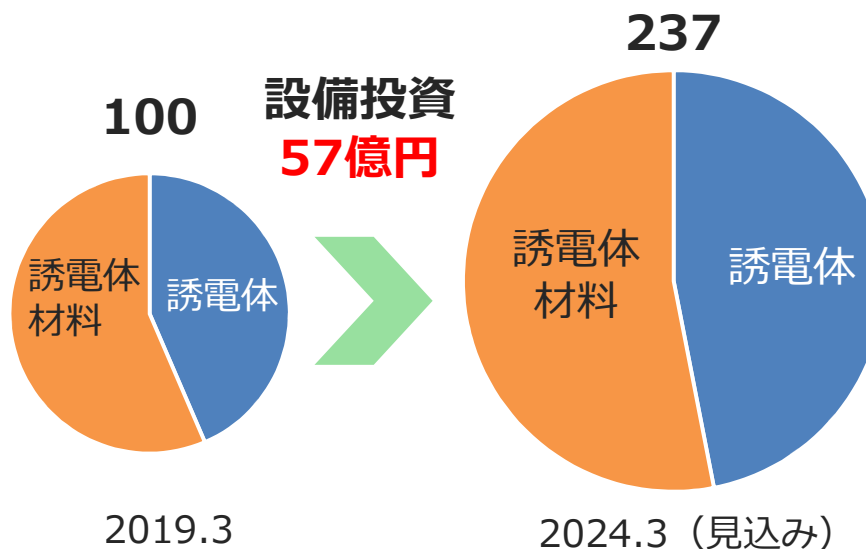
戦略投資：電子材料

対象：誘電体 (チタン酸バリウム)、誘電体材料 (高純度炭酸バリウム)

市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 車載向けはCASE※の進歩により、今後も伸長すると期待 ◆ 5G、IoTの普及
当社戦略	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 品質の安定化(顧客サイドの歩留まり、信頼性向上) ◆ 新製品(微細誘電体)の早期軌道化 ◆ 顧客需要への迅速な対応(増産対応)

誘電体は微細ハイエンドの開発品を軌道に乗せて収益力を強化し、誘電体材料では増産体制を構築して拡販の攻勢をかける

● 売上高 (全体の数字は指数)



前中計から実施している設備増強

- ・ 誘電体材料 18年1月～ 約3割増
19年4,11月 約3割増
- ・ 微細誘電体 19年9月末完工予定

※CASE:Connected(コネクテッド)、Autonomous(自動運転)、Shared & Services(カーシェアリングとサービス)、Electric(電気自動車)の頭文字をとった造語。



戦略投資：酸化チタン・亜鉛製品（化粧品材料）

対象：化粧品材料

市場動向

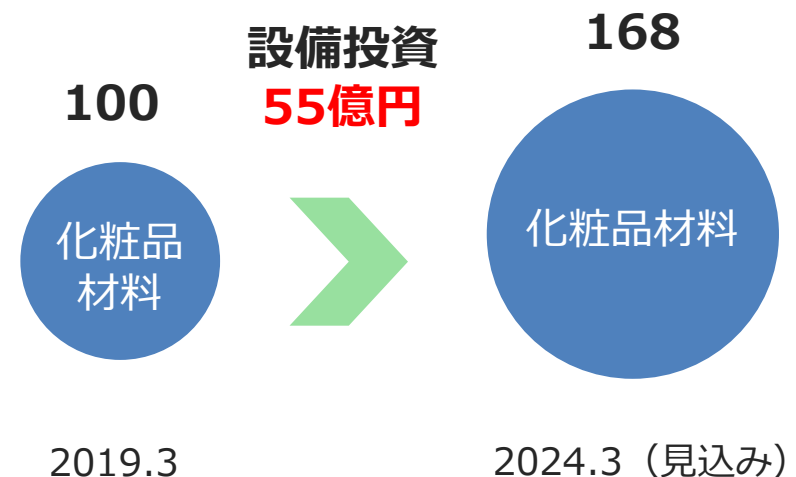
- ◆ 欧州のガイドライン変更により、酸化亜鉛が使用可能に
- ◆ ハワイ州で2021年から特定の有機成分含有の日焼け止め販売禁止
- ◆ 生態系や人体への影響の問題から、マイクロプラスチック規制の流れ（イギリスやアメリカなど）
- ◆ 中国を中心としたアジア市場の拡大

当社戦略

- ◆ 世界の規制の動きに対応し、海外展開を加速
- ◆ 異形状酸化亜鉛や板状硫酸バリウムなど、オンリーワン製品により差別化

多くの化粧品素材を開発・製造できることを強みとし、旺盛な需要に対して生産能力を引き上げ、業界での存在感を高める

●売上高（全体の数字は指数）

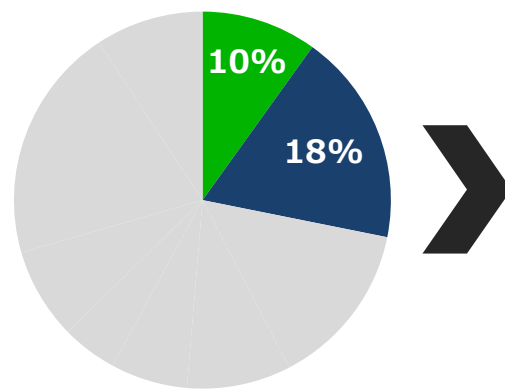


各セグメントの構成（ご参考）

摘 要		2019.3	2024.3
電子材料	売上高	8,858	17,000
	営業利益率	7.3	9.4
酸化チタン・亜鉛製品	売上高	16,341	19,000
	営業利益率	1.9	6.3
樹脂添加剤	売上高	12,745	19,000
	営業利益率	1.9	6.3
衛生材料	売上高	8,006	10,000
	営業利益率	3.1	3.0
有機化学品	売上高	5,919	7,000
	営業利益率	14.0	14.3
触 媒	売上高	4,257	5,000
	営業利益率	6.8	10.0
受託加工	売上高	7,000	8,000
	営業利益率	14.7	13.8
その他	売上高	18,130	22,000
	営業利益率	2.4	5.0
医 療	売上高	8,285	12,000
	営業利益率	4.5	6.7

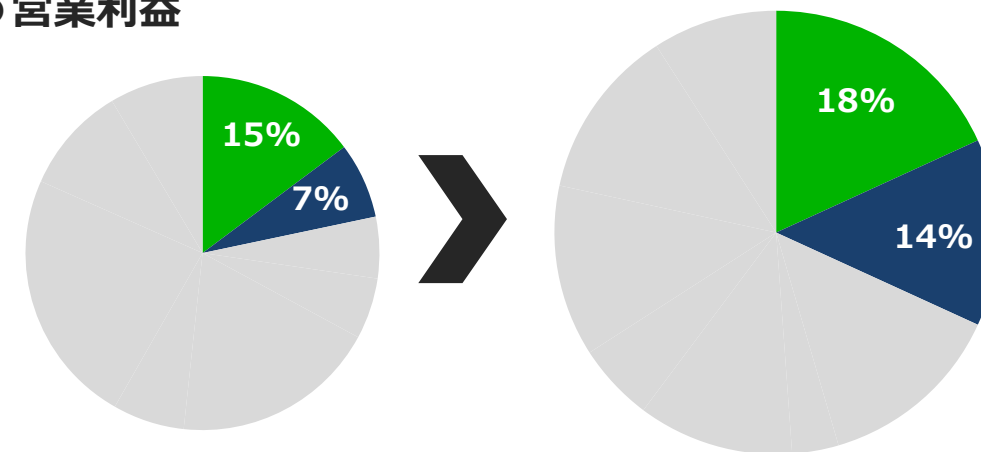
2019.3

●売上高



2024.3（目標）

●営業利益



再構築投資

働く人や環境にやさしい、災害に強い工場、本社、技術棟の整備と将来の工場建設スペースの確保（投資額90億円）

環境と人にやさしい工場・オフィスの構築

環境にやさしい工場

排水処理設備の改良、廃棄物低減の取り組みを強化

人にやさしく災害に強い工場・オフィス

より安全で安心、快適に働ける環境を整備し、事務所や厚生施設の建替えも実施

将来の工場建設スペースの確保

設備更新によるコンパクト化や設備・建物の整理により、スクラップ&ビルドを推進

工場運営（ものづくり）の高度化、効率化

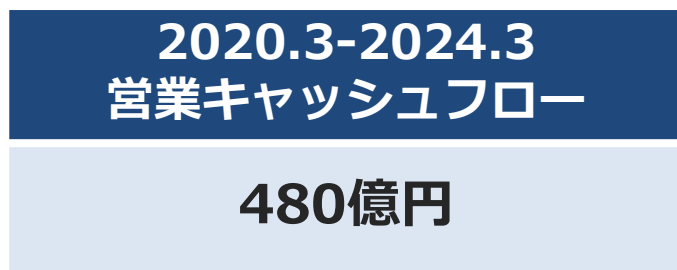
AI、IoT、5Gなどの活用によりスマート工場を構築



上：小名浜事業所（福島県いわき市） 下：堺事業所（大阪府堺市）

株主還元方針

事業活動で得たキャッシュを主に将来の成長に向けた投資に充てるとともに、
安定的・継続的な配当を実施



ご清聴ありがとうございました。

本資料は、情報の提供を目的とし、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいるため、実際の業績はこれと異なる結果となる可能性があります。

また、化学事業のサブセグメントの数値は任意で公表しているものであり、監査を受けておりませんので、参考値とご承知おきください。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に依存して投資判断されることにより生じうるいかなる損失に関して、当社は責任を負いません。

参 考 資 料

- 当社概要
- 事業紹介
- 業績推移等



堺化学工業(株) 会社概要

本 社	堺市堺区戎島町5丁2番地
代 表 者	代表取締役社長 矢部 正昭
創 業	1918年6月
事業内容	無機化学工業製品、有機化成品、医薬品の 開発・製造・販売
総 資 産	120,082百万円
純 資 産	80,291百万円
関係会社	連結子会社17社（国内8社、海外9社）
従業員数	連結1,964名/単体754名（2019年3月末現在）



当社グループについて

化 学【製造・販売】

堺化学工業(株)

大崎工業(株)

レジノカラー工業(株)

共同薬品(株)

SC有機化学(株)

日本カラー工業(株)

(株)片山製薬所

SAKAI CHEMICAL(VIETNAM) CO., LTD.

SIAM STABILIZERS AND CHEMICALS CO., LTD

PT. S&S HYGIENE SOLUTION

化 学【販 売】

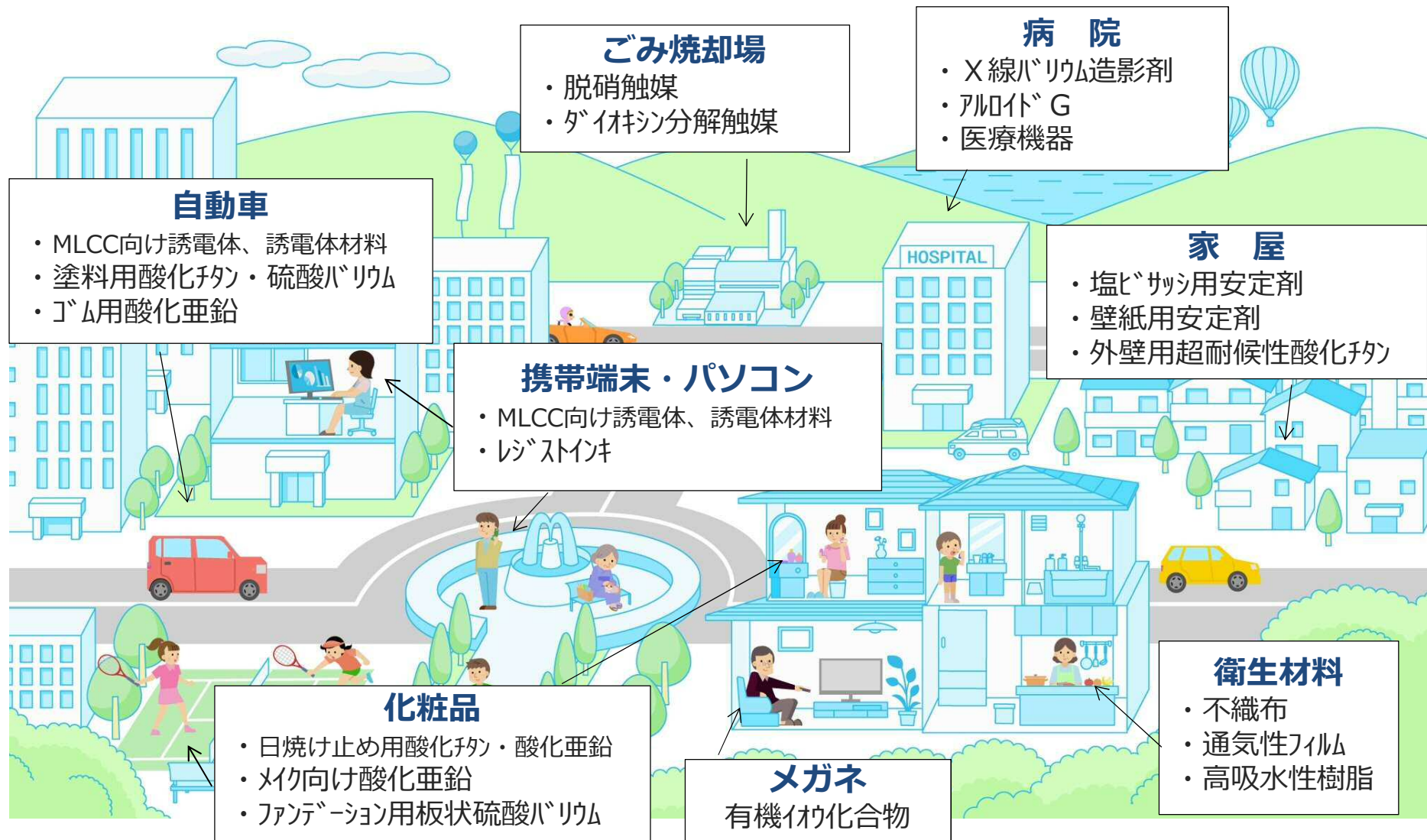
堺商事(株)

医 療【製造・販売】

カイゲンファーマ(株)



暮らしに息づく当社グループ製品

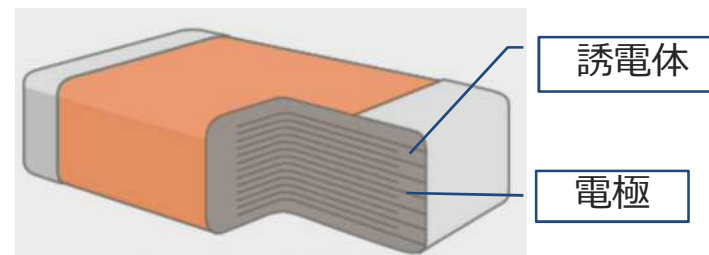


事業の紹介 <化学>

電子材料

積層セラミックコンデンサ

- ・誘電体（チタン酸バリウム）
- ・誘電体材料（高純度炭酸バリウム）



電子機器には欠かせない積層セラミックコンデンサのメイン材料。
誘電体は電気をたくさん貯めたり、ノイズを除去する性質を持ちます。
当社は、微細で形が均一に揃った球状の誘電体を開発し、コンデンサの性能向上に貢献していきます。

こんなところに
使われています



事業の紹介 <化学>

酸化チタン・亜鉛製品

- ・酸化チタン…着色力、隠ぺい力、耐候性、化学的安定性に優れる白色顔料
- ・酸化亜鉛…ゴム製品の加硫促進助剤
- ・亜鉛末…建物や橋梁などのサビ止め塗料に
- ・化粧品材料…高い紫外線遮蔽や滑らかな肌触りを実現

酸化チタンは、塗料やインキ、製紙、プラスチック、化学繊維などあらゆる分野に必要とされる素材です。

酸化チタン、酸化亜鉛とともに微細にすると紫外線遮蔽率が高まるため、日焼け止めやファンデーションにも活躍しています。

こんなところに
使われています



事業の紹介 <化学>

樹脂添加剤

パイプ、継手、窓枠、壁紙、ワイヤーハーネス

・塩ビ安定剤・非塩ビ安定剤

・ハイドロタルサイト ... 非鉛系塩ビ安定剤や

高い保温性と透明性から農業用フィルムに

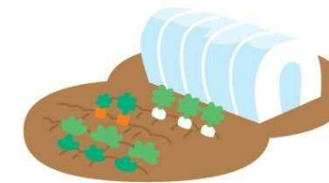


塩ビ安定剤は、樹脂の加工性向上や劣化抑制などのために

添加されます。現在、世界的に塩ビ安定剤の脱鉛化が進んでおり、非鉛系への切替えが加速しています。

ベトナム子会社では非鉛系安定剤およびその原料となるハイドロタルサイトを製造し、東南アジアを中心に販売を拡大しています。

こんなところに
使われています



事業の紹介 <化学>

衛生材料

おむつ、生理用品

- ・ 高吸水性樹脂 (SAP)
- ・ 通気性フィルム … 水分を留めて蒸気だけを通す

こんなところに
使われています

海外で需要が増加している中、インドネシア子会社では通気性フィルムを製造しています。



有機化学品

プラスチックレンズ、コンクリート、潤滑油、医薬品

- ・ 有機イオウ化合物 … メガネレンズの屈折率向上、
コンクリート混和剤としても
- ・ 有機リン化合物 … 潤滑油添加剤に
- ・ 医薬品原薬・中間体

こんなところに
使われています

有機イオウ化合物BMPAを国内で唯一製造しています。



事業の紹介 <化学>

触 媒

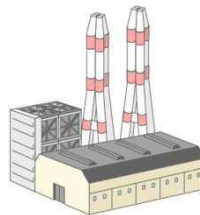
ごみ焼却場、火力発電所、マーガリン、接着剤、光学フィルム

- ・脱硝触媒 … 窒素酸化物を除去
- ・プロセス触媒(ニッケル触媒) … 油脂・樹脂の水素化など

脱硝触媒は、中国の環境規制の影響により、輸出が増加しています。



こんなところに
使われています



受託事業

無機・有機化学工業製品の受託製造

…顔料、着色剤、機能性インキ、触媒、樹脂添加剤など

さまざまな機械を取り揃え、幅広い分野に対応しています。



事業の紹介 <医療>

カイゲンファーマ(株)

X線バリウム造影剤

…消化管撮影

1931年に原料となる薬用硫酸バリウムの製造を開始。定期検診でお馴染みのものですが、海外への輸出も行っています。



医療機器

・内視鏡用洗浄消毒器

バリウムから胃カメラ検診への移行に対応。薬価改定の影響を受けない事業と位置付け、開発に注力しています。



アルロイドG

…消化性潰瘍・逆流性食道炎治療薬

胃・十二指腸潰瘍の止血や粘膜保護、逆流性食道炎における自覚症状を改善。



一般用医薬品

- ・「改源」シリーズ
- ・カイゲン顆粒
- ・カイゲンパックIB顆粒



台湾市場への販売を開始するなど、ブランド力の向上に努めています。

連結業績推移・予想

摘 要	2015.3		2016.3		2017.3		2018.3	
		対売上高比率		対売上高比率		対売上高比率		対売上高比率
売上高	86,973	100.0%	85,520	100.0%	83,938	100.0%	87,223	100.0%
営業利益	4,164	4.8%	4,615	5.4%	4,551	5.4%	4,690	5.4%
経常利益	4,218	4.8%	4,421	5.2%	4,290	5.1%	4,279	4.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,275	2.6%	2,340	2.7%	2,037	2.4%	2,329	2.7%

摘 要	2019.3		2020.3	
		対売上高比率		対売上高比率
売上高	89,541	100.0%	93,000	100.0%
営業利益	4,404	4.9%	6,000	6.5%
経常利益	4,553	5.1%	6,000	6.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,606	4.0%	4,000	4.3%

金額単位：百万円



主要会社の売上高・営業利益

金額単位：百万円

摘 要		2015.3	2016.3	2017.3	2018.3	2019.3
堺化学工業	売上高	35,509	35,229	36,384	38,802	40,615
	営業利益	480	1,320	1,697	2,088	1,141
	営業利益率	1.4	3.7	4.7	5.4	2.8
	ROE	1.9	2.5	2.9	5.7	3.5
堺商事	売上高	37,734	36,524	34,353	36,761	39,514
	営業利益	525	460	558	417	664
	営業利益率	1.4	1.3	1.6	1.1	1.7
	ROE	5.0	3.7	4.5	2.8	5.5
カイゲンファーマ	売上高	8,803	8,789	8,675	8,585	8,426
	営業利益	495	497	183	184	376
	営業利益率	5.6	5.7	2.1	2.1	4.5
	ROE	2.5	4.1	1.1	▲ 10.6	6.2
大崎工業	売上高	6,159	5,157	4,766	5,004	5,261
	営業利益	339	379	368	437	323
	営業利益率	5.5	7.3	7.7	8.7	6.1
	ROE	10.6	11.2	19.4	14.9	7.5
レジノカラー工業	売上高	5,738	5,786	5,466	5,764	5,773
	営業利益	501	515	255	306	343
	営業利益率	8.7	8.9	4.7	5.3	5.9
	ROE	7.1	7.3	1.9	4.9	6.9

化学事業の製品別売上高・営業利益推移

金額単位：百万円

摘 要		2015.3	2016.3	2017.3	2018.3	2019.3
電子材料	売上高	7,426	6,463	7,398	8,033	8,858
	営業利益	556	695	803	969	651
酸化チタン・亜鉛製品	売上高	12,380	13,051	13,914	15,758	16,341
	営業利益	▲ 456	236	713	624	304
樹脂添加剤	売上高	10,512	10,695	11,151	11,934	12,745
	営業利益	▲ 14	183	530	529	248
衛生材料	売上高	9,576	9,526	8,176	8,558	8,006
	営業利益	▲ 62	▲ 96	182	100	246
有機化学品	売上高	5,957	6,927	6,353	5,979	5,919
	営業利益	1,363	1,256	1,016	548	828
触 媒	売上高	3,803	2,795	2,650	3,427	4,257
	営業利益	244	▲ 66	▲ 268	89	289
受託加工	売上高	6,313	6,168	5,988	6,721	7,000
	営業利益	753	645	444	882	1,031
その他	売上高	20,502	18,315	17,053	17,218	18,130
	営業利益	1,196	1,323	1,015	800	432
合 計	売上高	76,469	73,940	72,683	77,628	81,256
	営業利益	3,580	4,176	4,435	4,541	4,029

注：化学事業の営業利益から全社費用を差し引いています。

カイゲンファーマの製品別売上高推移

金額単位：百万円

摘 要	2015.3	2016.3	2017.3	2018.3	2019.3
バリウム	2,436	2,453	2,315	2,327	2,265
アルロイドG	1,279	1,088	880	860	990
医療機器	1,922	2,074	2,309	2,290	2,373
一般用医薬品	1,717	1,729	1,580	1,463	1,190
その他	1,449	1,445	1,591	1,645	1,608
合 計	8,803	8,789	8,675	8,585	8,426